令和８年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報 告 書

令和８年６月

東 京 都 教 育 委 員 会

はじめに

東京都教育委員会は，東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し，中学校，義務教育学校，中等教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう，その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は，中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして，一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば，入学者選抜のための問題であるとともに，中学校等の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和８年２月２１日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には，約３５，０００人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では，学力検査結果を分析し，各教科の平均点，得点分布及び各問の正答率や，正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては，国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか，また，苦手としているのかなど，東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により，成果と課題の把握や，生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また，高等学校においては，調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や，生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案，学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

区市町村教育委員会，中学校等及び高等学校におかれましては，本調査報告書に掲載した内容等を，生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など，生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和８年６月

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　令和８年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針 …… 1

Ⅱ　調査目的 …… 1

Ⅲ　調査内容 …… 1

Ⅳ　調査結果

1　概要 …… 1

(1)　教科別受検者数

(2)　教科別実施校数

(3)　教科別平均点

2　各教科 …… 2

(1)　国語 …… 2

(2)　数学 …… 4

(3)　英語 …… 6

(4)　社会 …… 8

(5)　理科 …… １０

Ⅰ　令和８年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

１　中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし，出題の範囲は，中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。

２　出題の内容は，各教科とも，中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに，一部の領域に偏ることのないようにする。

３　出題に当たっては，基礎的・基本的な知識及び技能の定着や，思考力，判断力，表現力などをみるとともに，体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

Ⅱ　調査目的

１　上記Ⅰの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について，その学力の実態を把握する。

２　各教科・各問の正答及び誤答を分析し，その結果を公表することで，中学校，義務教育学校及び高等学校等における教科指導の改善に資する。

Ⅲ　調査内容

令和８年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和８年２月２１日実施）において，全日制高等学校を志願し，共通問題により学力検査を受検した者について，次の調査を実施した。

１　教科別の平均点及び得点分布

全数調査により，教科別得点状況等を調査した。

２　各教科の小問・大問正答率

抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては，信頼度９５％を担保するに十分な人数を抽出した。

小問正答率は，小問において，抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は，大問において，各小問で抽出した受検者の総数に対する，各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

Ⅳ　調査結果

１　概要

(1)　教科別受検者数

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
３０，９００人	３０，９０１人	３０，７４２人	３４，４３０人	３４，４２９人

(2)　教科別実施校数

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
１５１校	１５１校	１５０校	１６０校	１６０校

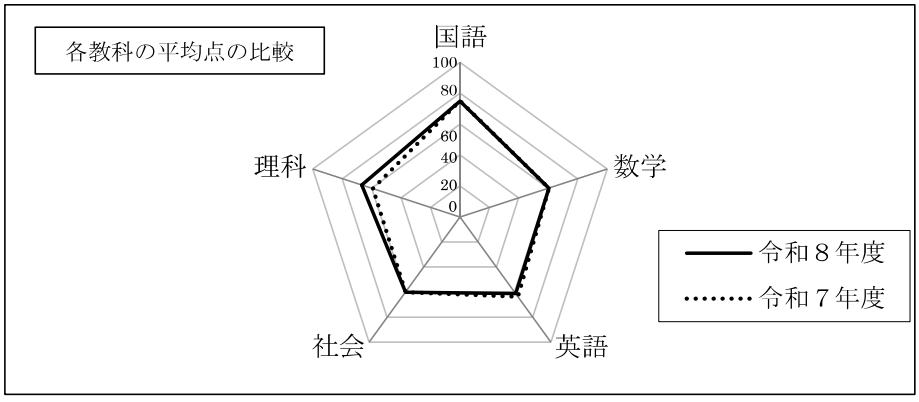
(3)　教科別平均点

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
７４．９点 （７５．０点）	６０．４点 （６０．４点）	６１．２点 （６３．７点）	５９．９点 （５９．９点）	６６．７点 （５９．２点）

(注１)　各教科の満点は１００点である。

(注２)　記述式の問題や作図の問題では，各学校で部分点を与えるという採点上の配慮を行っている。

(注３)　教科別平均点欄の（　　）内の数字は，令和７年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2　各教科

(1)　国語

ア　出題の方針

国語の特質に関する理解や伝え合う力，思考力，想像力など国語で正確に理解し適切に表現する能力をみる。

イ　各問のねらい

1　漢字を正しく読む能力をみる。

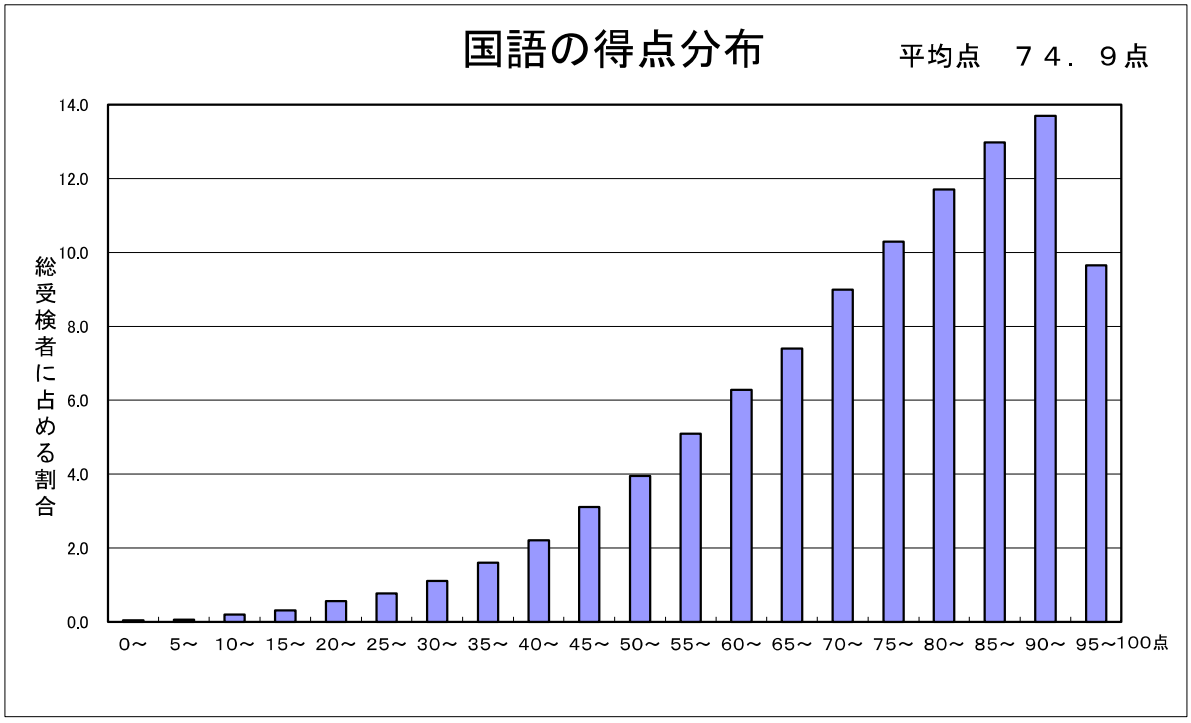
2　漢字を正しく書く能力をみる。

3　文学的な文章を読み，叙述や描写などに即して，語句や文の意味，登場人物の様子，心情などを正しく理解する能力をみる。

4　説明的な文章を読み，叙述や文脈などに即して，語句や文の意味，文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに，考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら，相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。

5　対談を含め，古典を引用した複数の資料を読み，発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみるとともに，言葉の特徴や使い方，情報の扱い方，言語文化に関する知識をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は７４．９点となり，昨年度より０．１ポイント下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の８０点～８４点から９０点～９４点に移り，８５点以上の受検者の割合が３２．５％から３６．３％に増加した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　漢字を正しく読む能力をみる問題とした。

2　漢字を正しく書く能力をみる問題とした。

3　二十歳の主人公が，かつて父と一緒に写生大会に参加したことを回想する物語的文章を読み，表現の特徴や登場人物の様子，心情などを正しく理解する能力をみる問題とした。

4　対話の本質について述べた説明的な文章を読み，叙述や文脈に即して内容や段落の役割，筆者の主張を正しく読み取る能力をみる問題，本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に論理的に表現する能力をみる問題とした。

5　世阿弥の考えに関する複数の文章や，原文とその現代語訳の一部を読み，要旨を的確に捉える問題，対談における発言の役割を理解することを通して，伝え合う力をみるとともに，言葉の特徴や使い方，情報の扱い方，言語文化に関する知識をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	58.5%	65.6%
	(2)	2	71.2%	
	(3)	2	31.8%	
	(4)	2	91.7%	
	(5)	2	74.9%	
2	(1)	2	73.0%	64.4%
	(2)	2	68.8%	
	(3)	2	58.9%	
	(4)	2	51.8%	
	(5)	2	69.4%	
3	※〔問 1〕	5	84.8%	84.8%
	※〔問 2〕	5	59.6%	
	※〔問 3〕	5	94.9%	
	※〔問 4〕	5	91.0%	
	※〔問 5〕	5	93.8%	
4	※〔問 1〕	5	70.1%	☆68.0%
	※〔問 2〕	5	65.3%	
	※〔問 3〕	5	66.5%	
	※〔問 4〕	5	65.5%	
	〔問 5〕	10	☆72.6%	
5	※〔問 1〕	5	55.6%	64.7%
	※〔問 2〕	5	84.3%	
	※〔問 3〕	5	55.5%	
	※〔問 4〕	5	63.9%	
	※〔問 5〕	5	64.3%	

（注１）　☆は部分正答も含めた割合
（注２）　※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　(3)「そんしゅ」と表記する誤答が多かった。

2　(4)「覧」の字について無回答が多く、次いで部首の「見」を「貝」とする誤答が多かった。

3　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，カワセミの鳴き声を印象的に述べている隠喩（暗喩）表現の工夫や「また」の意図について正しく捉えられなかったためと考えられる。

4　〔問 2〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，第十段落での筆者の主張を正確に読み取ることができなかったことにより、「その場を照らし出す光」の指し示す内容を明らかにすることができなかったためと考えられる。また，〔問 4〕では「ウ」という誤答が多かった。これは，「思い込みを壊して無にする」という叙述の内容を的確に捉えることができなかったためと考えられる。

5　〔問 1〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，河竹さんの発言をこれより前に述べられている東儀さんの発言と関連付けて理解することができなかったためと考えられる。また，〔問 3〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，序・破・急について述べられた複数の文章から，序破急についての正確な情報を整理することができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 1及び2の誤答の内容から語彙の量と質が十分ではないと考えられる。語句の意味や漢字の構成要素を確認させるとともに，漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導や，用例を作成させることで未知の語彙を話や文章の中で使う学習を深めることが必要である。

(ｲ) 3の〔問2〕の正答率が低いことから，場面と場面，場面と描写などを結び付けて内容を解釈する能力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において，考えたことを伝え合うスピーチなどの言語活動を通して，個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく，複数の場面を相互に結び付けたり，各場面と登場人物の心情や行動，情景等の描写とを結び付けたりすることによって内容を解釈する資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。

(ｳ) 4の〔問4〕の正答率が低いことから，叙述や文脈に即して，筆者の意図を捉える力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において，筆者の用いている言葉の意味を調べ，文脈に即して理解する学習や，段落の内容を整理して各段落の役割や関係をまとめ，筆者の主張を正確に捉える資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。

(ｴ) 5の〔問 3〕の正答率が低いことから，複数の情報を整理しながら適切な情報を得て，文章の内容を正しく理解する能力が十分ではないと考えられる。目的に応じて情報の適否を見極めながら整理して読み進める資質・能力を身に付けさせるための指導を充実させることが必要である。

(2)　数学

ア　出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみるとともに，これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力，判断力，表現力等をみる。

イ　各問のねらい

1　数と式，図形，データの活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる。

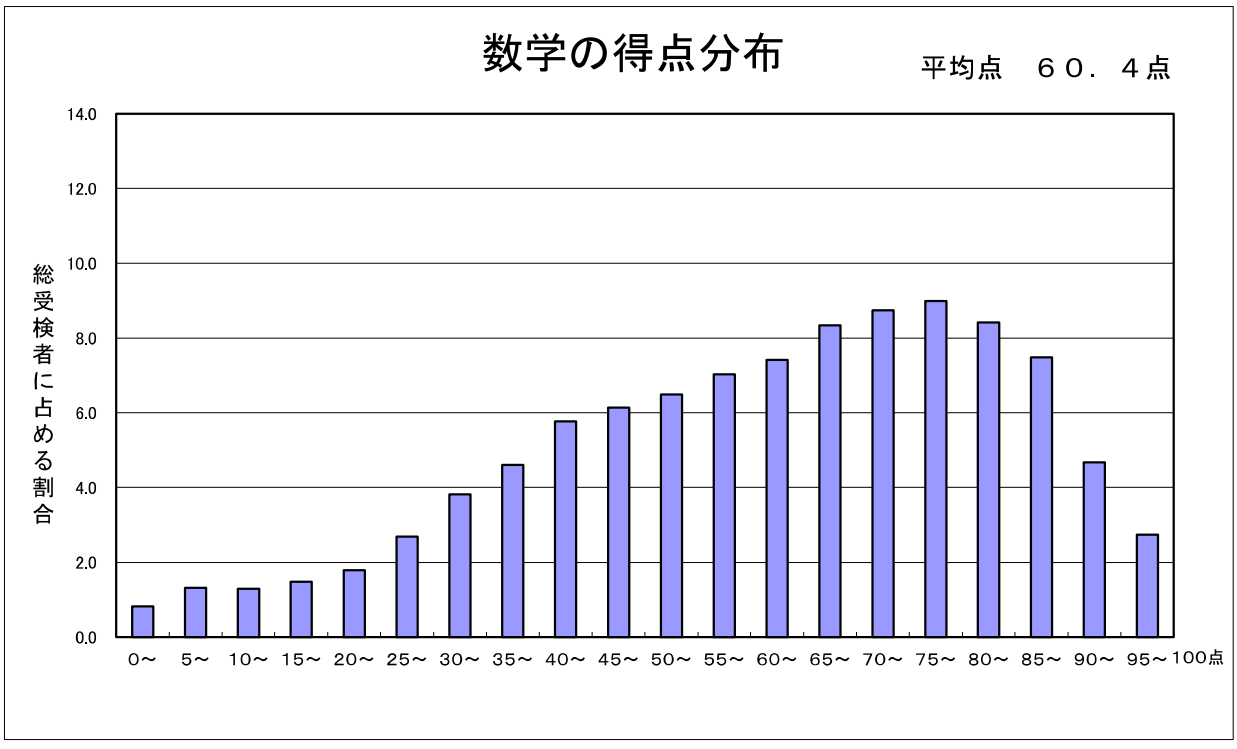
2　数学的活動の場面をもとに，数学的な見方・考え方を働かせ，事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。

3　関数についての知識及び技能をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

4　平面図形についての知識及び技能をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。

5　空間図形についての知識及び技能をみるとともに，図形の性質や関係を直観的に捉え，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は６０．４点となり，昨年度と同様であった。

今年度は，分布のピークが昨年度の６５点～６９点から７５点～７９点に移り，８０点以上の受検者の割合が１７．２％から２３．３％に増加した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

大問	小問		配点	小問正答率	大問正答率
1	〔問 1〕		5	73.1%	☆69.4%
	〔問 2〕		5	73.9%	
	〔問 3〕		5	74.4%	
	〔問 4〕		5	88.3%	
	〔問 5〕		5	85.6%	
	〔問 6〕		5	72.3%	
	※〔問 7〕		5	55.9%	
	〔問 8〕		5	42.8%	
	〔問 9〕		6	☆58.1%	
2	〔問 1〕		5	54.0%	☆44.1%
	〔問 2〕		7	☆34.3%	
3	※〔問 1〕		5	66.6%	48.4%
	※〔問 2〕		5	60.0%	
	〔問 3〕		5	18.5%	
4	※〔問 1〕		5	66.9%	☆39.7%
	〔問 2〕	①	7	☆44.8%	
		②	5	7.5%	
5	〔問 1〕		5	34.9%	18.5%
	〔問 2〕		5	2.0%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1 〔問 7〕では，「ア」という誤答が多かった。これは，相対度数と累積相対度数についての理解が十分でなかったためと考えられる。
〔問 8〕では，「25 度」という誤答が多かった。これは，線分ＢＣを∠ＡＢＤの二等分線と誤認したためと考えられる。

2 〔問 2〕では，部分正答を含めて正答率が 34.3%，無答率は 52.6%であった。これは，３桁の整数ＸとＹや，ＸとＹの和として得られるＺや，各位の数を操作して得られるＷを，文字を用いて正しく表すことができなかったためと考えられる。また，Ｚ－Ｗの値が９の倍数になる理由を根拠に基づいて示すなど，説明の見通しを立てることができなかったためと考えられる。

3 〔問 3〕では，誤答率が 40.7%，無答率は 40.9%であった。これは，条件を満たす点の座標を文字を用いた式で表すこと，四角形ＡＢＣＰの面積と△ＢＱＲの面積を文字を用いて表し，処理することができなかったためと考えられる。

4 〔問 2〕②では，誤答率が 68.6%，無答率は 23.9%であった。これは，与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形を見いだすなどして，線分ＡＲに含まれる線分の比を考察して見通しを立てることや，処理することができなかったためと考えらえる。

5 〔問 1〕では，誤答率が 57.0%，無答率は 8.1%であった。これは，△ＭＰＮを∠ＮＭＰが直角の直角二等辺三角形と捉えたり，∠ＮＭＰが直角，∠ＭＮＰが 60° の直角三角形と捉えたりしたためだと考えられる。また，〔問 2〕では，誤答率が 63.8%，無答率は 34.3%であった。これは辺ＡＢの中点が点Ｍであることに着目し，Ｍ－ＣＤＮＰの高さを求めることができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 1 の正答率から，計算問題等の基礎的・基本的な事項についての知識及び技能については概ね定着している。しかし，〔問 1〕の正答率から，四則計算の意味の理解と式を処理する技能を高める指導を充実させる必要がある。4 〔問 2〕②の正答率から，図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり，それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではないと考えられる。条件を適切に読み取ることや，与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形，平行線などに着目して，既習事項に関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。

(ｲ) 2 〔問 2〕及び 4 〔問 2〕①の正答率から，根拠に基づいた立式や説明をする力が十分ではないと考えられる。問題文から条件を読み取り立式する指導，推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導の充実が必要である。また，考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して，正確に，分かりやすく表現する能力を高める指導を充実させる必要がある。

(ｳ) 5 の正答率から，図形の性質や関係を直観的に捉え，空間内にある直線と平面の位置関係や，立体の中にできる平面等を正確に把握する力が十分ではないと考えらえる。実際に立体を作ることや，立体の見取図，展開図，投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取ることなどを通して，空間における図形の位置関係を捉えたり，空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3)　英語

ア　出題の方針

簡単な英語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解するとともに，自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ　各問のねらい

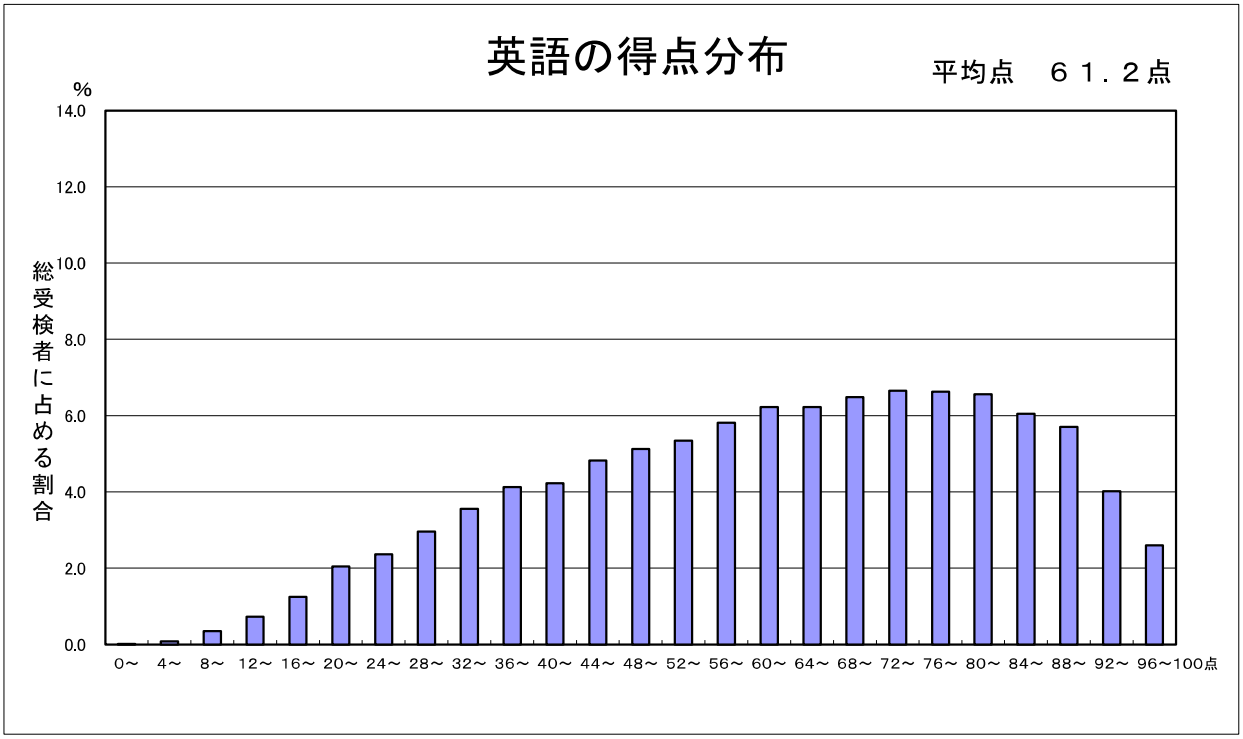
1　自然な口調で話される英語を聞いて，その具体的な内容や大切な部分を把握したり，聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。

2　英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに，必要な情報を得たり，自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。

3　まとまりのある対話文を読み，その流れや大切な部分を把握する能力をみる。

4　物語文を読み，そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は６１．２点となり，昨年度より２．５ポイント下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の８４点～８７点から７２点～７５点に移り，８０点以上の受検者の割合が３２．３％から２４．９％に減少した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　今後の予定に関するやり取りや，外国人の先生のスピーチなどを聞き，具体的な内容や大切な部分を把握したり，聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

2　高校生と留学生が，クラスメイトが行った調査や国際交流イベントについてのウェブサイトを見ながら，ホストファミリーに渡すお土産や参加するプログラムについて話し合う場面を題材として，英語によるコミュニケーションを通して身近な問題を解決する能力をみる問題とした。

また，帰国した留学生からのＥメールに返信する場面を設定し，「趣味として新しく始めたいこと」について，自分の考えやそれを取り上げた理由を英語で表現する能力をみる問題とした。

3　高校生と留学生が，美化委員会の目標を踏まえ，普段行っている活動を基にした新しく行う活動について話し合い，協力してよりよいアイディアを出すという内容の対話文を読み，対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

4　高校生のダンス部に所属する主人公が，地域の人にダンスを披露するという経験を通して，他者の視点をもってパフォーマンスの内容を考えることの大切さに気付くという内容の物語文を読み，本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

大問	小問		配点	小問正答率	大問正答率
1	※A	〈対話文1〉	4	60.4%	☆60.9%
		〈対話文2〉	4	75.8%	
		〈対話文3〉	4	77.5%	
	B	※〈Question 1〉	4	71.8%	
		〈Question 2〉	4	☆18.9%	
2	※1		4	28.3%	☆45.4%
	※2		4	53.6%	
	3	※(1)	4	46.8%	
		(2)	12	☆52.8%	
3	※〔問1〕		4	74.0%	67.7%
	※〔問2〕		4	82.8%	
	※〔問3〕		4	67.4%	
	※〔問4〕		4	69.3%	
	※〔問5〕		4	68.7%	
	※〔問6〕		4	62.3%	
	※〔問7〕		4	49.3%	
4	※〔問1〕		4	69.5%	43.9%
	〔問2〕		4	41.2%	
	※〔問3〕	(1)	4	31.0%	
		(2)	4	41.9%	
		(3)	4	35.9%	
	※〔問4〕	(1)	4	38.8%	
		(2)	4	48.6%	

（注１）　☆は部分正答も含めた割合
（注２）　※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　Bの〈Question 2〉では，“To see a beautiful view.”や“To sing a song.”などとする誤答が多かった。これは，スピーチの具体的な内容や質問の意味を十分に理解できず，解答すべき内容を英語で正しく書き表すことができなかったためと考えられる。

2　1では，「ウ」という誤答が多かった。これは，対話を基に調査の結果を読み取り，二番目に人気のあるお土産を選ぶことができなかったためと考えられる。また，3(2)では，「趣味として新しく始めたいこと」という主題を正確に理解できなかったり，自分の考えを英語で正しく表現できなかったりした解答が見られた。

3　〔問7〕では，「ア」という誤答が多かった。これは，対話の流れを時系列に沿って理解することができなかったためと考えられる。

4　〔問3〕(1)では，「イ」という誤答が多かった。これは，登場人物の心情の把握が十分でなかったためと考えられる。また，〔問3〕(3)では，「ウ」という誤答が多かった。これは，登場人物の行動の把握が十分でなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ)　1及び2の正答率から，まとまりのある文章を聞いたり読んだりする際，コミュニケーションの目的や場面，状況などに応じて，必要な情報，概要，要点を捉える力を高める指導を充実させることが必要である。また，聞いたり読んだりしたことについて生徒が自分の考えや気持ちを話したり書いたりするなどの複数の領域を統合した言語活動を通して，既習の語彙や表現の活用を促し，その定着を図る指導の充実が必要である。

(ｲ)　3及び4の正答率から，まとまりのある文章を読む際に，対話の流れや時系列に沿って登場人物の考えを把握する力，物語文のあらすじ，登場人物の心情や行動を把握する力を高める指導の充実が必要である。

(4)　社会

ア　出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ　各問のねらい

1　地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。

2　世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。

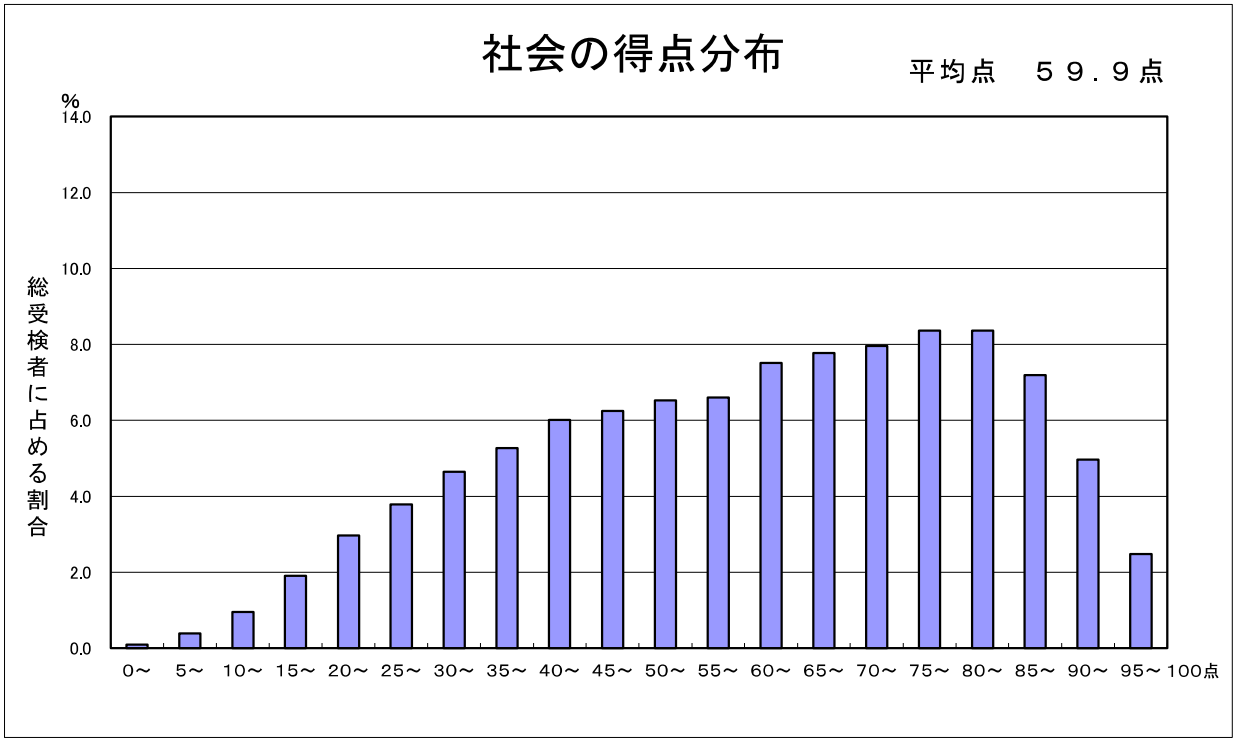
3　我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。

4　世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。

5　現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。

6　現代社会の諸問題について，地図やグラフ等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の３分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は５９．９点となり，昨年度と同様であった。

今年度は，分布のピークが昨年度の８０点～８４点から７５点～７９点及び８０点～８４点になり，８０点以上の受検者の割合が２３．８％から２３．０％に減少した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	5	86.7%	77.4%
	※〔問 2〕	5	62.5%	
	※〔問 3〕	5	83.0%	
2	※〔問 1〕	5	49.8%	52.7%
	※〔問 2〕	5	59.6%	
	※〔問 3〕	5	48.7%	
3	※〔問 1〕	5	61.5%	☆56.6%
	※〔問 2〕	5	42.1%	
	〔問 3〕	5	☆66.0%	
4	※〔問 1〕	5	59.4%	☆48.3%
	※〔問 2〕	5	27.9%	
	〔問 3〕	5	☆49.7%	
	※〔問 4〕	5	55.9%	
5	※〔問 1〕	5	78.1%	☆54.8%
	※〔問 2〕	5	66.2%	
	※〔問 3〕	5	17.1%	
	〔問 4〕	5	☆57.7%	
6	※〔問 1〕	5	45.6%	41.2%
	※〔問 2〕	5	43.0%	
	※〔問 3〕	5	34.9%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　資料と景観写真から読み取った情報を基にした地形図の判別，江戸時代に政治改革を行った人物，裁判における役割を担う者について問う問題とした。

2　穀物を題材として，自然環境と食文化の様子及び世界の気候，とうもろこしの生産や消費の様子，米の生産や我が国との結び付きについて地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる問題とした。

3　都市を題材として，我が国の自然環境と県庁所在地の様子，地方区分に関する統計等から，地域的特色について考察する能力や，資料から読み取れる高崎市内の土地利用の変化について適切に表現する能力をみる問題とした。

4　道具を題材として，古代から中世にかけて各時代の人物が築いた寺院の様子，室町時代から江戸時代にかけて政治などに関する主な出来事について考察する能力や，明治時代の資料を活用し，製糸場の数と立地する府県数の変化について適切に表現する能力，大正時代から平成時代の電化製品の製造や販売などに関する主な出来事の時期と社会の発展について考察する能力をみる問題とした。

5　財政を題材として，国民年金法が根拠とする日本国憲法の条文，我が国の歳入・歳出に関する金額の推移，衆議院の優越が適用される事項について考察する能力や，資料を活用し，交通バリアフリー法の施行前と施行後のノンステップバスの車両数の変化について適切に表現する能力をみる問題とした。

6　交通の発達を題材として，港の様子と港が立地する都市における歴史的な主な出来事，現代の国際情勢に関する主な出来事，世界の様々な国・地域の外国人が日本を訪れる様子について，３分野から総合的に考察する能力をみる問題とした。

(ｲ) 主な誤答例等

1　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，江戸時代における政治の展開についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

2　〔問 3〕では，「アーＹ」という誤答が多かった。これは，説明文の内容から統計資料を正しく読み取ることはできていたが，国の位置や日本との関係性を関連付けて国を特定することができなかったためと考えられる。

3　〔問 2〕では，「イ」や「ウ」という誤答が多かった。これは，資料で示されている人口 100 万人以上の都市の数，政令指定都市の数，最も人口が多い都市の様子から，各地方の特色を捉えられず，中部地方を特定することができなかったためと考えられる。

4　〔問 2〕では，「エ→ア→ウ→イ」という誤答が多かった。これは，応仁の乱と鉄砲伝来の時期についての理解が十分ではなかったためと考えられる。また，略地図中の政治などに関する主な出来事が起こった場所については，「ア」という誤答が多かった。これは，応仁の乱が始まった場所と織田信長が築いた安土城の場所についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

5　〔問 3〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，国会における衆議院の優越に関する理解が十分ではなかったためと考えられる。

6　〔問 3〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，説明文の内容から統計資料を正しく読み取ることができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 地理的分野については，地形図や雨温図の読図，統計資料の読み取りなど基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導を継続することが必要である。また，地図帳を活用し，複数の地理情報を関連付けて考察し，地域的特色を理解する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｲ) 歴史的分野については，我が国の歴史の大きな流れについて，世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させる指導を継続することが必要である。また，様々な資料を活用し，歴史的事象を考察する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｳ) 公民的分野については，日本国憲法の基本的な考えや，政治や経済の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて理解させる指導を継続することが必要である。また，統計等の資料を活用して多面的・多角的に考察し，事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が必要である。

(ｴ) 論述問題については，社会的事象から課題を見いだし，多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付ける学習活動の一層の充実が必要である。

(5)　理科

ア　出題の方針

自然の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的に探究する活動を通して思考力，判断力，表現力等をみる。

イ　各問のねらい

1　第１分野（「エネルギー」や「粒子」）と第２分野（「生命」や「地球」）の各領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみる。

2　日常生活に関わる探究的な活動を通して，複数の領域にわたる事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる。

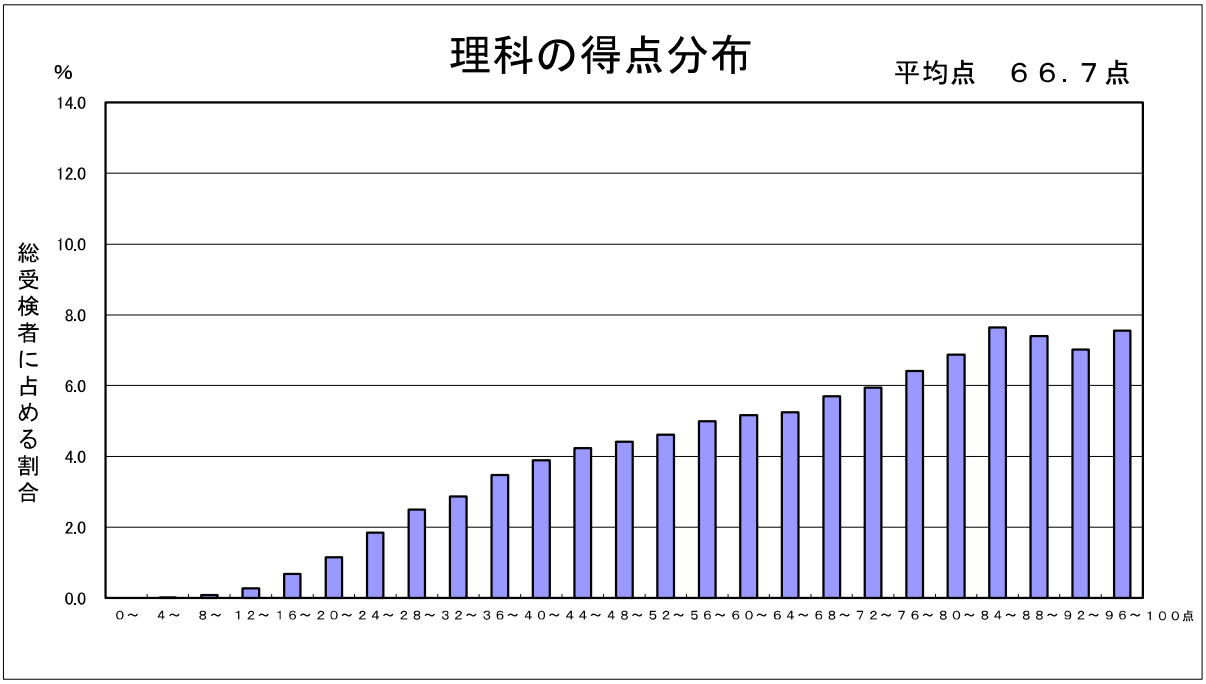
3　「地球」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，観測を通して科学的な思考力，判断力をみる。

4　「生命」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力をみる。

5　「粒子」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力，表現力をみる。

6　「エネルギー」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力，表現力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は６６．７点となり、昨年度より７．５ポイント上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の７６～７９点から８４点～８７点に移り、８０点以上の受検者の割合は２３．０％から３６．５％に増加した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　各領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題とした。

2　日常生活に関わる探究的な活動を通して，複数の領域にわたる事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

3　気象観測を通して，天気の変化についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

4　ヒトの体内の消化に関する実験を通して，生物の体のつくりと働きについての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

5　イオンの性質を調べる実験を通して，化学変化と電池についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力，表現力をみる問題とした。

6　物体に働く力に関する実験を通して，物体に働く力と物体の変形についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力，表現力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	4	82.8%	64.7%
	※〔問 2〕	4	60.7%	
	※〔問 3〕	4	75.9%	
	※〔問 4〕	4	36.0%	
	※〔問 5〕	4	73.8%	
	※〔問 6〕	4	58.7%	
2	※〔問 1〕	4	51.9%	52.1%
	※〔問 2〕	4	49.5%	
	※〔問 3〕	4	40.8%	
	※〔問 4〕	4	66.3%	
3	※〔問 1〕	4	61.0%	61.8%
	※〔問 2〕	4	58.7%	
	※〔問 3〕	4	67.7%	
	※〔問 4〕	4	60.0%	
4	※〔問 1〕	4	73.0%	67.5%
	※〔問 2〕	4	60.5%	
	※〔問 3〕	4	69.0%	
5	〔問 1〕	4	☆34.9%	☆40.3%
	※〔問 2〕	4	56.1%	
	※〔問 3〕	4	39.3%	
	※〔問 4〕	4	31.0%	
6	※〔問 1〕	4	70.7%	☆53.2%
	※〔問 2〕	4	29.0%	
	〔問 3〕	4	―	
	〔問 4〕	4	☆60.0%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題
（注３）6〔問 3〕は，全員に一律４点を加点した。

(ｲ) 主な誤答例等

1　〔問 4〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，化学変化や熱についての理解が十分でなかったためと考えられる。

2　〔問 3〕の②では，「イ」という誤答が多かった。これは，回路に流れる電流の大きさと電力量の関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。

3　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，低気圧の特徴についての理解が十分でなかったためと考えられる。

4　〔問 2〕の②では，「イ」という誤答が多かった。これは，ヒトの体内における栄養分の貯蔵についての理解が十分でなかったためと考えられる。

5　〔問 1〕では，「塩化銅水溶液が電解質であるため電流を流すことができる」という誤答が多かった。これは，電解質についての理解が十分でなかったためと考えられる。〔問 3〕の②では，「ウ」という誤答が多かった。これは，電池における電子の移動する向きについての理解が十分でなかったためと考えられる。〔問 4〕の正答率が低かったのは，電池における水溶液中のイオンの増減とイオンの移動する向きを考察する力が十分でなかったためと考えられる。

6　〔問 2〕の①では，「イ」という誤答が多かった。これは，ばねに働く力の大きさとばねの伸びの関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。〔問 2〕の②では，「ウ」という誤答が多かった。これは，物体を持ち上げるときの仕事についての理解が十分でなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 5〔問 1〕の正答率が低いことから，水溶液の電気的な性質に関する基礎的・基本的事項の知識及び技能，表現力の定着に課題があると考えられる。既習事項や観察・実験の結果，複数の事物・現象を関連付けて考察する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｲ) 5〔問 4〕の正答率が低いことから，電池の仕組みに関する理解に課題があると考えられる。探究の過程を通してイオンのモデルと関連付けて考察し，微視的に事物・現象を捉える学習活動の一層の充実が必要である。

(ｳ) 6〔問 2〕の正答率が低いことから，ばねに働く力の大きさとばねの伸びの関係について，図や実験結果を分析して解釈することに課題があると考えられる。原理や法則などの理解を深める探究の過程を通して思考力，判断力を育成する学習活動の一層の充実が必要である。